

## 令和2年6月北斗句会選句

### 宮下ひかる選

#### 特選：

#### NO. 17 久々の新茶届くと長電話

世の中、次第に人間関係が希薄になってきている時、  
「長電話」している状況、気持ち雰囲気人間関係がよく出ている。

#### 選：

#### NO. 5 我が墓碑や夏うぐひすのしきりなる

今まさに、林間ではうぐいすが頻りに鳴き、「老鶯」でなく「夏うぐいす」  
の表現が、毎日ハイクに明け暮れの人間には非常に実感的に受け止められる。

#### NO. 12 棒グラフに一喜一憂の皐月かな

まさに、テレビで報道されている状況が、取り上げられて 賛意を示すとと  
もに、それを取り上げてくれている詠み手の気使いに敬意を示したい。

#### NO. 24 鉢巻の店主を睨む初鯉

勢いの良い「鉢巻の店主」に負けず、睨んでいる初鯉の活きの良さが 十二  
分に、自然と表現されており、これは素晴らしい。

#### NO. 40 白蓮の音立てて咲く古寺の朝

蓮の朝方、花開く激しい音は、その場に居合わせた者には、その通りと、そ  
の場に居合わせた時を思い出し、よく取り上げてくれたものと喜びと感謝。

### 田中資凡選

#### 特選

#### NO. 24 鉢巻の店主を睨む初鯉

鉢巻の店主と初鯉の勢いのよさの対比が巧み。しかも、「睨む初鯉」と断定し  
ている作者の主観を、さもありませんと思えるところに、この句の面白味がある。

#### 選

#### NO. 7 丈伸びし如き富嶽や夕立あと

夕立後の澄み切った大気に、何時も見慣れている富士の丈が、少し伸びたよう  
に見えたという、微妙な変化を巧く捉えている。

#### NO. 22 石仏の半ば埋まる木下闇

誰も関心を寄せないであろう土に半ば埋もれた石仏に気づき、古へと思い馳せ  
る作者。季語「木下闇」がよく効いている。

#### NO. 37 晩酌の手に十薬の香りかな

十薬の臭気は好ましいものではないのに、「香りかな、」と言ってのけたとこ  
ろに、意外性、独自性がある。

#### NO. 41 坪畑の苗よ夜すがら喜雨の音

雨の音に、苗の発育への思い、安堵感が伝わる。「夜すがら」の措辞が情趣を  
深くし巧い。

## 太田黒幸風選

### 特選

#### NO、7 丈伸びし如き富嶽や夕立あと

夕立が去った後の爽やかな光景、一段と大きくなったように浮かんでいる富士の姿が彷彿とする。

### 選

#### NO, 1 緑さす参道またぐ大鳥居

緑の参道と赤く大きな鳥居の取り合わせが良い。

#### NO、15 酒は灘肴は鱧の湯引きかな

酒飲みの夏の極楽の状況、美味そうな感じが浮かんでくる。

#### NO、39 新茶よと言われて背筋伸ばしけり

何となく飲んでいた時、それ新茶よと言われて、威儀を正して飲みなおす光景が諧謔的に詠まれている。

#### NO、41 坪畑の苗よ夜すがら喜雨の音

裏庭の小さな畑に植えている苗類に恵みの雨が降り続いており、ホットしている光景が目につかぶ。

## 竹内雲泉選

### 特選

#### NO. 39 新茶よと言はれて背筋伸ばしけり

「そうか」と言って、気持ちをあらためただく感じが良く表されている。

### 選

#### NO. 6 鱧釣りの仕掛けにちぬの掛かりけり

鱧釣で「ちぬ」が掛かったのは、外道ですが、喜びに満ち溢れている感じが句から見えてきて良い。

#### NO. 24 鉢巻の店主を睨む初鰹

誰が店主を睨んでいるのか」と言えば、作者自身でしょう。

初鰹が、もうひと声安くといった感じじでしょうか？

#### NO. 26 船の下潜りし日あり新樹蔭

海辺育ちの私は、子供の頃、ともだちと競って、「舟」の下を潜りました。この「船」はもっと大きい。木陰で休んでいて思い出している？

#### NO. 42 樋の音大きくなりぬ男梅雨

梅雨の時期は、しとしととした雨が続きます。

この日は、樋の音が急に一段と大きくなった。サッパリとした梅雨日和。

森田光彦選

特選

NO. 22 石仏の半ば埋まる木下闇

どこかの古道か。歴史を感じます。

選

NO. 14 鎖樋つたふしずくや合歓の花

梅雨の夕方、合歓の花の咲くころか。 「しずく」→「しづく」

NO. 18 鰻食ふコロナ太りを気にしつつ

コロナ禍の時節柄、よく解ります。

NO. 24 鉢巻の店主を睨む初鯉

加藤楸邨の「雉子の眸きじめのかうかうとして売られけり」を思い出しました。

NO. 39 新茶よと言われて背筋伸ばしけり

「背筋伸ばしけり」に「はっ」とした状況が、よく解ります。

長池豆陽選

特選

No.14 鎖樋つたふしずくや合歓の花

雨の名を出さずに、しとしととそぼ降る雨の描写が巧い。季語が効いている。

選

No.15 酒は灘肴は鱧の湯引きかな

美味そう。場所は？ステイホームならコロナ自粛も悪くはない。

No.23 薔薇の雨アンネてふ名の喫茶店

雨に濡れる薔薇と喫茶店の取り合わせが良い。中七の深い意味はなさそうなカタカナの店名もリズムよく、静かさを彩る。手馴れた巧い句。

No.34 身の上に鐘の音落つ黴の宿

コロナ禍の影響か、黴発生の宿。横たえる身体に、折しもの鐘の音が重なり、侘しさが倍加、諧味の時事句。中七、落つるの連体形に。

No.41 坪庭の苗よ夜すがら喜雨の音

苗植えに水は必需。特に甘藷などは予報を調べて植えても心配なもの。中七で苗よと軽く切り、喜びを共有。巧みな破調。

## 山縣秀雄選

### 特選

#### NO. 4 天も地も明るきままに緑雨かな

上五から景の大きさがわかり、中七が季語緑雨とぴったり合っており、気持ちの良い句である。

### 選

#### NO. 23 薔薇の雨アンネてふ名の喫茶店

アンネ喫茶店を見て、アンネのばらを連想し、薔薇に降っている雨の状況を読んでいる作者の発想力が素晴らしい。

#### NO. 25 憂きことよ自粛のままに梅雨に入る

コロナ禍で世の中は憂きことばかりで、憂鬱な季語梅雨入りにぴったりの同感できる時事句である。

#### NO. 36 蔞を剥くかって母子の蔭に坐し

蔞の皮剥きの手伝いをしていた頃の状況を思い出して、良くまとめている。景がわかるのも良い。

#### NO. 42 樋の音大きくなりぬ男梅雨

景が良くわかり、季語男梅雨にぴったりの表現が良い。

## 大崎石州選

### 特選

#### NO. 40 白蓮の音立てて咲く古寺の朝

静寂な古寺の朝、音立て咲く蓮の花、情景と雰囲気が良い。  
音が聞こえ、語呂もよい。

### 選

#### NO. 9 ひっそりと白き十葉輝けり

路地に咲くドクダミの花、でも存在を示すように輝いているようだと見たのが良い。

#### NO. 14 鎖樋つたふしづくや合歓の花

情景をそのまま句にしたのが良い。

#### NO. 20 店子の声ひときわふとき初鯉

中七の「ひときわふとき」が効いている。上五が語呂悪し。「競りの声」でよいのではないか・。

#### NO. 31 薔薇咲くや住む人もなき広き庭

散歩中なのだろうか、フト見ると広い庭に綺麗なバラが咲いている。丹精込めたであろう住人はいない。空き家なのである。

華やかな「バラ」と「住む人もなき」とした組み合わせが良い。

## 大森康正選

### 特選

#### NO. 7 丈伸びし如き富嶽や夕立あと

夕立で洗われた空気は透明度を増し、遠富士のパノラマがくっきりと見える。嶺が空を突き上げる表現が良。リズムが力強い。

### 選

#### NO. 3 梅雨空に晴間ありけり蜜届く

長い梅雨、曇り空の中に現れる晴間は、貴重でホッとした喜びを感じる。憂きことの多い日常の中で、届き物を心を癒やす晴間と受け取った。

#### NO. 14 鎖桶つたふしづくや合歓の花

上五、中七からは、廃屋の裏庭と言った、暗い景色が浮かんでくる。合歓の花により雰囲気は一変、レトロな光景に生まれ変わった。

#### NO. 22 石仏の半ば埋まる木下闇

季語の木下闇から受ける感じに、ぴったりな句材である。相乗効果により不気味さが助長。

#### NO. 39 新茶よと言はれて背筋伸ばしけり

何時もの「・・・しながら」のお茶飲みである。「新茶よ」との声に、改めて真面目に味を再確認。諧味あり。

## 吉岡誠山選

### 特選

#### NO. 24 鉢巻の店主を睨む初鯉

初鯉が店主を睨むようにみえ、初鯉を可愛そうに感じる人間の優しさが詠われているのが良い。

### 選

#### NO. 12 棒グラフに一喜一憂の皐月かな

今考えても、来る日も来る日も一喜一憂した思いがあり、当時の状況を良く語っている。ただ「に」を切れ字の「や」に変更したらと思う。

#### NO. 20 店子の声ひときはふとき初鯉

初鯉が店頭に並べられ、華々しく売りに出されている様子がよく分かる。ただ「ひときはふとき」を漢字に変えたらと思う。

#### NO. 31 坪畑の苗よ夜すがら喜雨の音

畑の苗の身になって喜雨の雨を喜んでいる様子がよく詠われている。坪畑を手にかけている人に関心するばかりです。

## 深見十萬選

### 特選

#### NO. 15 酒は灘肴は鱧の湯引きかな

京都ではこの時期の鱧は特別の料理。何処の料理茶屋でも勿体を付けて出す筈。

### 選

#### NO. 5 我が墓碑や夏うぐひすのしきりなる

自分の墓碑の傍で、季節外の鶯の声。閑静な墓地のなかの鳥の声は取り分け寂しく聞こえる。

#### NO. 9 ひつそりと白き十葉輝けり

ドクダミの花は白く小さいが、万緑の中では存在感を増す。

#### NO. 31 薔薇咲くや住む人もなき広き庭

最近、田舎では人の住まない家が増えている。両親の亡くなった家のことか。

#### NO. 39 新茶よと言はれて背筋伸ばしけり

新茶と言われればまさに背筋を伸ばして味わうもの。

## 藤田紀潮選

### 特選

#### NO. 5 我が墓碑や夏うぐひすのしきりなる

生前に墓碑をつくる人は、長寿の人。なのに、夏鶯が盛んに作者に「早く来いよ」囃し立てる。諧謔味溢れた句。こんな名句をつくる人は100歳はおろか120歳までも、大丈夫か。

### 選

#### NO. 7 丈伸びし如き富嶽や夕立あと

夕立ち後のすっきりとした富嶽の景を活写。「丈伸びし如き」の比喻が良い。

#### NO. 20 店子の声ひときはふとき初鯉

落語か時代小説にありそうな、長屋の大家と店子の関係が目に浮かぶ。

家賃が滞りがちな店子が初鯉持参で来訪、いつもより威勢がよい。大家になりすましての苦心作。

#### NO. 27 艦めしの金曜カレー夏旺ん

艦艇部隊のカレーライス、週休二日制移行以前には、土曜日の昼食の定番であった。季語の「夏旺ん」で成功。「艦めし」は造語っぽいが本家のこだわり。

#### NO. 41 坪畑の苗よ夜すがら喜雨の音

日照りが続き、家庭菜園の苗の生育が心配。今日はやっと恵みの雨。

一晩中の雨でも心配はないのだろうか。「坪畑の小夜の半時喜雨の音」とか。